

高浜町長が再稼働同意

原発1、2号機「40年超」全国初

福井県高浜町の野瀬豊町

長は1日、運転開始から40年を超える同町の関西電力高浜原発1、2号機の再稼働に同意すると同町議会上尾徳郎議長に表明した。原発の寿命を原則40年とする「40年ルール」を超えた原発の稼働を立地自治体が認めたのは全国で初めて。しかし、再稼働には県議会と知事の了解も得るのが通例で、県が同意の前提とする「使用済み核燃料の県外での中間貯蔵先」を関電が示せておらず、再稼働の見

通しは立っていない。

野瀬町長は記者団に「原子力の安全性と必要性を総合的に勘案して、再稼働に同意することにした」と話した。同町議会は2020年11月に既に同意を表明している。

関電は野瀬町長の同意を受け「当社の継続的な安全性向上への取り組みなどを踏まえ、ご判断いただいたものと考えており、改めて深く感謝申し上げます」とのコメントを出した。一方、福井県の杉本達治

知事は、中間貯蔵施設の県外候補地が示されていない

ことを理由に「議論の入り口には入れない」との立場を崩していない。20年12月に、青森県むつ市の中間貯蔵施設を、関電を含む電力各社で共同利用する案が浮上したが、同市などが反対したため、関電は同年末、福井県に対し「候補地を現時点では報告できない」と伝えた。

年)に伴う東京電力福島第1原発事故を受け、国は13年7月、原発の運転期間を「原則40年」と定めつつ、基準を満たせば1度に限り最大20年の延長を認めるルールを定め、高浜1、2号機のほか、美浜3号機(福井県美浜町)が原子力規制委員会の審査をクリアした。高浜1号機は、関電が09年に実施した検査で、60年運転時点の脆性遷移温度(圧力容器の劣化を示す指標)の予想値が、廃炉以外の原発で最高を記録。関電は「地震や事故に耐えられる」としているが、安全性を懸念する声もある。高浜原発から約4キロ地点に住む住民団体「ふるさとを守る高浜・おおいの会」代表の東山幸弘さん(74)は「地域振興など、高浜3、4号機

が再稼働した時と同じ論理で町は再稼働に同意したが、1、2号機は『老朽原

発』。心配ではないのか」と反対を訴えている。

【大島秀利】